

27PE-am007

平成19年度1年次早期体験学習におけるハイブリッド型少人数グループ学習とエイジ・ミキシング法の有用性について

○水野 智博¹, 田口 忠緒¹, 加藤 博史¹, 吉見 陽¹, 山田 真之亮¹,
加藤 真梨奈¹, 大石 えりか¹, 吉村 智子¹, 吉田 勉¹, 伊藤 達雄¹, 野田 幸裕¹
(¹名城大薬)

【目的】名城大学薬学部では6年制教育の1年次に早期体験学習を導入している。本取組みでは、学生主導型グループ学習と従来の講義形式学習を組み合わせたハイブリッド型少人数グループ学習(SGL)、と上級生と下級生が学び合うエイジ・ミキシング法を導入した新しい試みである。平成18年度の実践では、学習意欲の向上など、その有用性が示唆されたが、エイジ・ミキシング法の理解や学生ファシリテータの割り当て、事前講義の充実等の課題も残った。こうした課題を考慮して平成19年度の早期体験学習を実施したので、その内容について報告する。【方法】少人数グループ(5名程度)を編成し、1) 医療施設に関する導入講義、2) 体験前の学習目標・課題の設定と調査、3) 体験学習、4) 体験後の学習内容の整理・追加調査と報告書の作成、5) 発表の順で行った。2)と4)では教員と共に今年度は2年生がファシリテータとしてSGLに参加し、行動目標・課題や報告書の作成の助言を行った。学習終了時には1年生および2年生・教員ファシリテータにアンケート調査を行い、エイジ・ミキシング法、ハイブリッド型SGLの有用性について評価した。【結果および考察】1年生のアンケートの結果では、エイジ・ミキシング法は「理解できた」「有益であった」「2年生ファシリテータの割り当ては適当であった」等の肯定的な回答は80%以上であったことから、平成18年度の問題点は大幅に改善されたものと示唆される。一方、2年生ファシリテータのアンケート結果では、「エイジ・ミキシング法は有用である」との肯定的な回答は70%前後であり、昨年度の4年生ファシリテータから得られた回答の86%より低値であった。この結果は、2年生ファシリテータが、ファシリテータとしての役割やエイジ・ミキシング法の有用性について十分に理解できていないことによるものと示唆される。以上の結果から本年度の実践は平成18年度以上の有用性が確認されたが、今年度の課題を修正し、来年度以降の早期体験学習を一層有意義なものにしていきたい。